

## ○ ワークショップ「国際会計研究会」

開催責任者 ビジネス研究科 白木俊彦  
2014年3月18日  
南山大学名古屋キャンパス J棟4階415室



ワークショップは以下のとおり、開催された。

### ◇報告者および題目

1. 西村智洋（あらた監査法人 公認会計士）  
「国際会計基準と今後の我が国会計基準の動向」
2. 原田保秀（四天王寺大学 准教授）  
「IFRS時代における新たな会計倫理—専門家としての判断と行動倫理学の視点」
3. 友杉芳正（東海学園大学 教授）  
「会計と監査のグローバル化」

### ◇ワークショップの討論内容

西村氏の報告内容は、2013年6月に公表された「国際会計基準（IFRS）への対応のあり方に関する当面の方針」に基づき、「修正版IFRS」についての議論を参照し、現状の日本基準とIFRSの相違を再確認し、今後日本でIFRSがどのように導入されていくかについて考察を行った。

原田氏の内容は、IFRSの導入によって、会計人の専門家としての判断が求められる機会は拡大すると予測し、それは専門家の技術水準と誠実性・倫理観によって担保され、会計不正抑制のためにも、専門家としての判断は重要な役割を果たすことを主張された。本報告では、原則主義と細則主義の比較検討からスタートし、不正のトライアングルと原則主義と細則主義の関係性を考察し、これまでの規範倫理学を基軸とする会計倫理研究とは異なる行動倫理学研究を用いた新たな会計倫理研究の考え方を紹介された。

友杉氏は「会計と監査のグローバル化」のテーマにおいて、実質優先主義のもと、コンバージェンスからアドプションへとグローバル化が進展している現在の会計と監査が抱える問題点を、いかに解決すべきかについて説明した。経営活動の実態把握を指向する公正価値会計が、予測、見積りなど主観的要素を多く取り込んでいるため、その監査対応も説得性が必要となり、会計判断と監査判断の乖離を避け、いかに調和を図るべきかが重要であることを主張された。

各報告に基づき、グローバル化する社会における課題について活発な議論がなされた。

#### ◇研究成果発表

これから発表されるものについては、各先生方にお任せしています。